

人の生活・健康を支援する  
「生活の質」の向上のために…

2026年度

Seijoh University  
Graduate School of Health Care Studies



星城大学大学院

---

健康支援学研究科 健康支援学専攻 修士課程

---

健康支援学領域

---

# 人の生活・健康…そして地域を支えるために… 健康支援学研究科

## 健康生活を支援するリーダー養成

令和5年版厚生労働省白書が発表されました。白書では主に「つながり・支え合いのある地域共生社会」について示されています。近年、コロナウイルス感染症が猛威をふるい社会環境は一変し、これまであたりまえにおこなわれていた生活様式、人びとの関わり方に大きな変化が生じました。それによりわたしたちが日常生活を健康ですぐすために「つながり・支え合い」が重要であることがあらためて再確認されました。加えて我が国の人口は2008年をピークに減少に転じ本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えようとしております。つながるための人の数が減少していく、そのような社会情勢の中でもう一度「つながり・支え合い」について深く考えるときが来ました。

日常生活を健康ですぐすことを目的とした場合、医学に関する知識はもとより、医療福祉、介護予防、精神健康、福祉用具、生活支援工学などの健康支援に関する専門知識は不可欠となります。しかしながら個々人が日々生活を営みながらこれらの知識を有することは非常に難しいです。健康支援に関する総合的な専門知識を有し必要な知識をたくさんの人へ還元できる人材がいれば、より多くの人々の健康的な日常生活の持続が可能となります。本研究科では、健康支援を「中高齢者および障害者の健康生活を保持する活動を支援する術を中心に学び研究する学術領域」と定義し、健康支援に関連する幅広い知識と技術の修得をはかり、地域で指導的役割を果たせる人材(高度専門職業人、研究者)の養成を目指します。

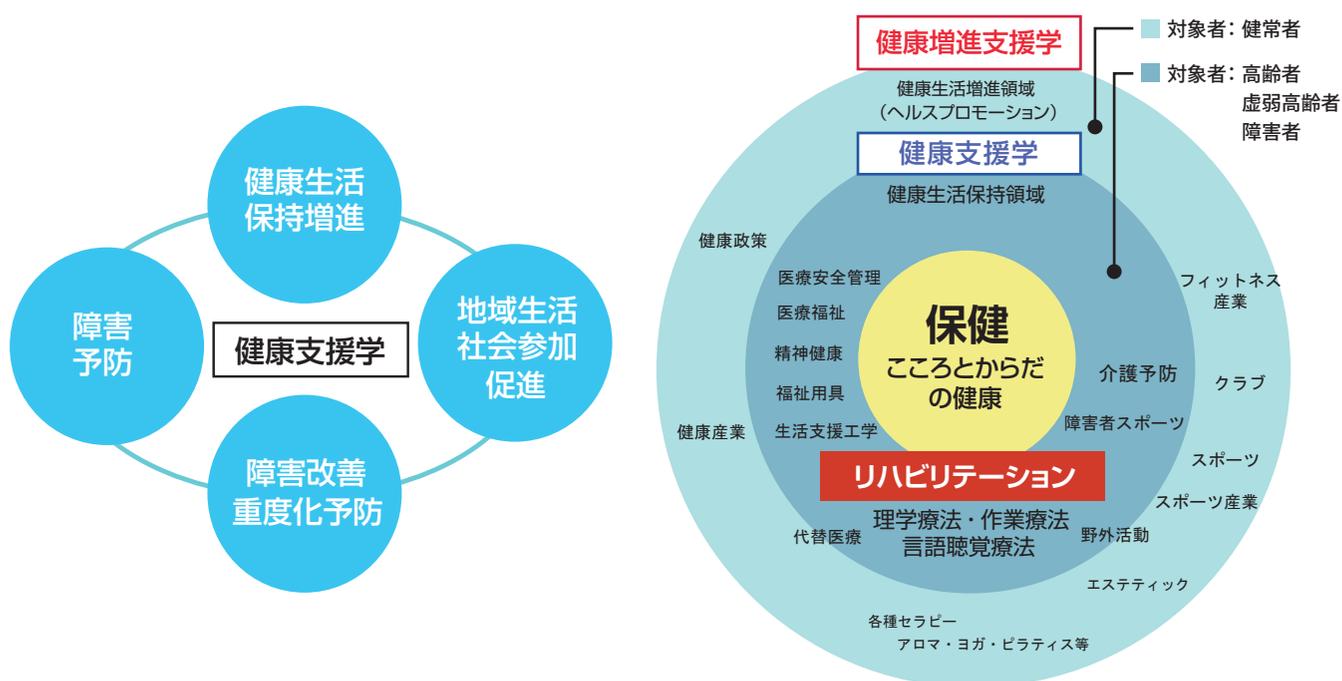
さて、本大学院では「疑問・興味」を重視し、それらにたいして「解明・探求」を進めることで幅広い知識と技術の修得をおこないます。くわえて専任教員、院生の間でおこなわれるディスカッションを通じて、「つながり・支え合い」のために必要な高いコミュニケーション能力の獲得と、深い専門知識を一般の方へわかりやすく伝えることの出来るスペシャリストの養成をおこなっております。大学院で学ぶことにより「疑問・興味」を解決できる論理思考と、専門知識をわかりやすく発信できる能力を身につけることができます。是非、本研究科の扉を叩いてみて下さい。



星城大学大学院 研究科長  
中谷直史 教授

## 健康支援学とは？

『中高齢者および障害者の健康生活を保持する活動を支援する術を中心に学び研究する学術領域』



## 健康支援学の概念

## 健康支援学研究科設置の背景

### ■地域の抱えている課題

- ①障害を抱えた人々の疾病、障害の多様化に対応した高度なリハビリテーション支援に係る知識・技術の開発と普及。
- ②人々の健康と長寿を保障する生活支援、疾病・障害予防プログラムと支援技術、および支援システムに係る知識・技術の開発と普及。
- ③リハビリテーション・生活健康支援分野の従事者を統括する指導的人材養成。保健・医療・福祉従事者の再教育・キャリアアップを保障する高度な教育機関が必要。

地域が必要とする  
保健・医療・福祉分野における  
指導的役割を果たせる  
人材を養成するために

健康支援学研究科を  
2008年4月に設置

## 修了生インタビュー

鈴木 隆史 さん(2021年3月修了)  
(理学療法士としてクリニック勤務)



### ●入学の動機

増え続ける若い理学療法士の中で、どう差別化を図るか考えていました。学部在籍から進学を視野に入れており、臨床に出て1年間、外の世界で学んだ結果、キャリアを積むために必要な研究法を学びたいと考え改めて進学を決意しました。

### ●修論のテーマと内容

『高齢者の車椅子座位における仙骨座圧及び骨盤前傾に対する形状記憶合金コルセットの装着効果について』

病棟や施設でよくみられる高齢者は「座らせきり」による仙尾骨部の褥瘡リスクを抱えています。一般的な搬送用普通車椅子を用いて褥瘡予防ができるか検証しました。

### ●大学院を修了してよかったこと

現在小児の外来リハビリに携わっています。研究法や修士課程の講義を通して学んだ知識や経験は勿論ですが、修士という学位は、若い理学療法士に対する患者さんのご両親が抱く懸念に対して、社会的信用を与えている意味でも取得してよかったと考えています。

村上 慈葉 さん(2022年3月修了)  
(理学療法士として病院勤務)



### ●入学の動機

私は大学卒業後、そのまま大学院へ進学しました。研究を通して、情報収集力や文献読解力が身につく、新たな着眼点を見出すことで臨床課題の解決につながると考えます。アルバイトで理学療法士として働くこともできるため、研究と臨床、どちらもスキルアップできると思い、進学を決めました。

### ●修論テーマと内容

『変形性膝関節症に対する腹部引き込み歩行が膝関節機能および胸椎後弯角度に与える効果について』

歩行時のメカニカルストレスを減少させる方法として、歩行修正が注目されています。腹部引き込み歩行介入が変形性膝関節症例の膝機能・膝痛、姿勢に与える効果を検証しました。

### ●大学院を修了してよかったこと

研究や多くの文献を読んでいく中で、適切な情報を選択する能力や疑問を解決する能力などを身につけることができました。また、講義を通して様々な分野について深く学び、視野が広がったと感じています。

加藤 彩菜 さん(2025年3月修了)  
(作業療法士として病院勤務)



### ●入学の動機

作業療法士として自分に足りないものを見つめ直した結果、質の高いリハビリテーションを提供するには、研究力が不可欠であると感じました。大学院で研究力を身につけ、自ら課題を発見・解決できる力を備えることで、科学的根拠に基づいた実践を行える作業療法士として、より信頼される専門職を目指したいと考え、進学を決意しました。

### ●修論のテーマと内容

『有酸素運動による亜急性期脳卒中患者のBDNF量増加と麻痺側上肢の機能および活動に関する効果検証:ランダム化比較試験』脳卒中後の上肢麻痺に対する新たなリハビリ手法として、有酸素運動による効果に着目しました。特に神経可塑性を促進するBDNFとの関連を検討し、有酸素運動が上肢機能回復に与える影響を明らかにすることを目的としました。

### ●大学院を修了してよかったこと

大学院での学びを通じて、エビデンスに基づいた思考力と課題解決力が身につきました。文献検索や研究計画の立案などの経験を重ねたことで、臨床にも自信を持って取り組めるようになり、作業療法士としての専門性と信頼性が大きく向上したと実感しています。

## 在院生インタビュー

平岡 大輝 さん  
(理学療法士として病院勤務)



私は急性期と生活期リハビリテーション領域での業務に従事しています。臨床と教育のマネジメントの経験を重ねる中で、疑問への探求と問題解決への論理的思考能力の重要性を感じたこと、本学では遠隔講義制度を利用することで学業と仕事の両立が可能であることを知り、進学を決意しました。

院生生活は、研究分野や健康支援領域の知見を深めるだけでなく、先生方からのご指導や院生間での研鑽・交流を通じて臨床だけでは学ぶことのできない貴重な経験を重ねることができています。先生方や院生、職場の皆さま、家族の支援があって研究活動ができることへの感謝を忘れず、大学院での活動を通じて今後の臨床や地域活動、スタッフ教育に還元すること、自身の専門性向上や人間性の成長に繋げていきたいと考えています。

坂口 佳祐 さん  
(理学療法士としてクリニック勤務)



私は健康支援や予防の分野での研究を進めたいと考え、より深い学びを求めて臨床2年目で大学院へ進学しました。現在、整形疾患を抱える患者さんに対してクリニックでリハビリテーションを行いながら、高齢者の腰痛をテーマに研究を進めています。

仕事と大学院生活の両立は容易ではありませんが、先生方の手厚い指導を受けることで、研究に関する知識や方法を体系的に学ぶ日々は大変充実しています。大学院で得た知識を臨床と結びつけ、地域の方々へ健康的な生活を長く続けられるよう支援活動を展開したいと考えています。また、研究を通じて、より効果的な予防策や支援プログラムの開発にも取り組んでいきたいと思っています。

内屋 純 さん  
(作業療法士として病院勤務)



これまでリハビリテーション分野では、エビデンスを示す報告が少ないと感じており、臨床での疑問を解決できないジレンマを抱えていました。そのため、大学院で学び、研究することの必要性を感じていましたが、なかなか決心がつかずにいました。そんな時、「学ぶのに遅すぎることはない」という言葉を目にし、決意を固め、臨床2年目で大学院に進学しました。

現在は、臨床業務、大学院の授業や研究、そして子育てに追われ、慌ただしい日々を送っています。無知であった過去の自分を恥じる気持ちもありますが、同時に学び喜びを強く感じています。オンラインを中心とした授業や研究指導のおかげで、臨床業務に支障をきたすことなく、また、子育てと両立しながら充実した大学院生活を送ることができています。

# 教育方法について

## 大学院の概要

■研究領域と  
アドミッションポリシー

### 健康支援学研究科

(健康支援学専攻)

### 健康支援学領域

障害・リハビリテーションや健康支援・障害予防のための環境と方法を科学する

### アドミッション・ポリシー

星城大学大学院健康支援学研究科では、リハビリテーション支援及び健康支援、障害予防支援の分野において最新の知識・技術を普及できる専門性を有する指導者並びに研究教育者の養成を目指しています。そのために、健康支援学研究科では次のような入学者を求めています。

1. 人や社会と健康に関する理解を深化させ地域社会で貢献を目指している意欲的な方
2. 保健医療福祉分野の実践家や教育者として探究心旺盛な方
3. 保健医療福祉分野で高度な知識と技術を備えた指導者を目指している方

## 教育目標

### ■どのような人材を育成するか？

- ▶リハビリテーション分野における指導的な人材の養成
- ▶生活健康支援分野における指導的な人材の養成
- ▶保健・医療・福祉の現代的課題に取り組む高度な研究・教育者の養成

## 社会人も安心、効果的に学べる講義システム

### 遠隔講義システム

通学が困難な遠隔地域の方でも、テレビ会議システムを活用して自宅や職場でリアルタイムに受講できます。双方向型なので、意見を交わしたり、研究指導を受けることも可能です。

### 昼夜開講制

平日昼夜間講義と土曜日の集中講義で、仕事と研究の両立が可能です。  
夜間:  
1時限目 18:30 ~ 20:00  
2時限目 20:10 ~ 21:40

### 長期履修制度

基本修業年限は2年ですが、3年または4年の年限を選択することができます。その場合の学納金は2年間分を修業年限で分割します。

### 研究費奨励

院生1名あたり年間20万円までの研究費を申請できます。  
※長期履修の場合は、全期間で総計40万円

### 遠隔講義以外の単位受講方法

演習科目は、15コマのうち一部を対面の集中講義で実施し、単位を取得するケースがあります。

(例)生活健康支援学演習I

遠隔講義 ..... 1日1コマ × 3日間 = 3コマ  
対面での集中講義 1日4コマ × 3日間 = 12コマ  
合計 ..... 15コマ

### 修士論文のテーマで国際学術専門誌掲載を支援

Sato K et al.. Effects of dance video game training on cognitive functions of community-dwelling older adults with mild cognitive impairment. Aging Clin Exp Res. 2023.

Yasui J et al.. Preoperative loss of knee extension affects knee extension deficit in patients after anterior cruciate ligament reconstruction. Orthop J Sports Med. 2023.

# カリキュラム

## 教育課程編成の特色

従来のリハビリテーション系大学及び大学院で行われてきた障害を主体とした研究や技術開発のみならず、人が健康に生活することについて理解し、健康を維持すること、回復すること、健康を阻害する要因を排除することについて体系的に研究することを特色とします。

- 下表は2025年度のカリキュラムです。 ※後期の曜日は変更になる場合があります。
- 全科目のうち一部、演習科目は遠隔で受講できない場合があります。
- 健康支援学特別研究は、従来の修士論文研究あるいは特定課題研究、いずれかの種別を選択します。

種別	領域	科目	単位数	必修 選択	期	曜日	時限	遠隔	修得単位 合計30単位
基礎科目		健康支援学特論	2	必修	前期	水/後半	1、2限	可	必修 6単位
		健康支援学研究法	2	必修	前期	水/前半	1、2限	可	
		健康行動支援学特論	2	必修	後期	木/前半	1、2限	可	
基本科目	健康支援学	運動障害学特論Ⅰ	2	選択	前期	木/前半	1、2限	可	選択14単位 (演習2単位含む)
		運動障害学特論Ⅱ	2	選択	後期	水/前半	1、2限	可	
		病態運動学特論	2	選択	前期	月/前半	1、2限	可	
		認知機能障害学特論	2	選択	前期	金/後半	1、2限	可	
		精神障害学特論	2	選択	前期	月/後半	1、2限	可	
		リハビリテーション健康支援学演習Ⅰ	2	選択	後期	月/前半	1、2限	可	
		リハビリテーション健康支援学演習Ⅱ	2	選択	後期	火	1、2限	集中講義は不可	
		生活活動学特論	2	選択	前期	金/前半	1、2限	可(一部不可)	
		生活環境学特論	2	選択	後期	水/後半	1、2限	可	
		運動健康支援学特論	2	選択	前期	火/後半	1、2限	可	
		心理社会健康支援学特論	2	選択	後期	金	1、2限	可	
		生活健康支援学演習Ⅰ	2	選択	後期	金	1限	集中講義は不可	
		生活健康支援学演習Ⅱ	2	選択	後期	火	1、2限	集中講義は不可	
関連科目		公衆衛生学	2	選択	後期	木/後半	1、2限	可	
		基礎統計学	2	選択	前期	木/後半	1、2限	可	
		医療マネジメント学特論	2	選択	後期	月	1限	可	
		医療安全管理学特論	2	選択	前期	火/前半	1、2限	可	
総合科目	修士論文研究	健康支援学特別研究	10	必修	通年			可	必修10単位
	特定課題研究								

単 位 数	基礎科目	必修	6
	基本科目・関連科目	選択	14
	総合科目	必修	10
	取得単位数		30

## 教育・研究 スケジュール

学年	月	項目
1年次	3月	新入生ガイダンス
		前期履修科目登録
	4月	入学式
		前期遠隔講義制度利用申請書の提出
		前期講義開始
		研究指導教員決定 研究計画の倫理審査
	7月	研究計画書の提出
	9月	後期履修科目登録
後期遠隔講義制度利用申請書の提出		
後期講義開始		
2月	中間報告会発表申請書の提出 中間報告会要旨の提出	
3月	中間報告会	

学年	月	項目
2年次	3月	前期履修科目登録
	4月	前期遠隔講義制度利用申請書の提出
		前期講義開始
	9月	後期履修科目登録
		後期遠隔講義制度利用申請書の提出 後期講義開始
	10月	論文題目届の提出
	12月	論文発表会用論文要旨の提出
		論文発表会
	1月	論文の提出
		論文審査
2月	論文審査結果の報告	
	学位授与の適否の議決 製本用論文の提出	
3月	学位授与式	

※長期履修者は毎年、中間報告会を実施

# 健康支援学領域

## 健康支援の領域における指導的な人材の養成

### 指導教員・研究内容一覧

※印は研究指導補助教員

- ◆中谷 直史 教授
  - 血中液性因子(マイオカイン)による骨格筋肥大メカニズムに関する研究
  - 骨格筋肥大促進・骨格筋萎縮予防効果を示す天然由来成分の探索研究
- ◆坂井 一也 教授
  - 精神障害者リハビリテーション・地域生活支援に関する研究
  - 精神障害者スポーツに関する研究
- ◆越智 亮 教授
  - 転倒回避動作のバイオメカニクス研究
  - バランス能力改善を目的とした運動療法に関する研究
- ◆大野 善隆 教授
  - 骨格筋の萎縮・肥大・再生のメカニズムに関する研究
  - 筋萎縮の予防、筋肥大・再生の促進を引き起こす刺激に関する研究
- ◆北野 達也 教授
  - 医療質・安全管理体制再構築のための新たな安全管理手法と効果検証
  - 医療オペレーションマネジメントのためのNon-Technical Skills強化の新たな手法とその効果検証
- ◆河村 章史 教授
  - ニューロ・リハビリテーションの実践における評価及び介入手法の確立と検証
  - 脳活動とリハビリテーション介入の関連に関する調査
- ◆林原 千夏 准教授
  - 馬介在療法の効果判定の研究
  - 自閉傾向がある療士とのコミュニケーションについての研究
- ◆萬屋 京典 講師
  - 認知症高齢者に対する非薬物療法に関する研究
  - 高齢者向け住まい入居者の認知症予防およびQOLの維持・向上に関する研究
- ◆古川 公宣 教授
  - 身体運動分析・筋機能分析に関する研究
  - 表面筋電図波形分析手法に関する研究
- ◆筒井 秀代 教授
  - 国際生活機能分類(ICF)を用いた身体的・心理社会的問題のアセスメント方法に関する研究
  - 混合研究法を用いた難病患者に生じる生活問題の要因に関する研究
- ◆林 浩之 教授
  - 脳卒中後の機能と活動改善を目指した運動
  - マイオカインに着目した運動麻痺と認知機能へのアプローチ
- ◆岩井 宏治 教授
  - 内部障害(呼吸・循環・腎代謝)患者や集中治療室患者のリハビリテーションの効果に関する研究
  - 身体活動量やヘルスリテラシーに関する疫学研究
- ◆平井 秀雄 教授
  - 運動が不器用な子どもの支援に関する研究
  - 身体運動に関するバイオメカニクスの研究
- ◆富山 直輝 准教授
  - 高齢者の介護予防に関する研究
  - 脳卒中片麻痺患者の姿勢制御に関する研究
- ◆大古 拓史 講師
  - 健常者および中枢神経障害者における運動療法とマイオカイン動態に関する研究
  - 温熱療法と運動療法のコンビネーション効果に関する研究
- ◆藤田 玲美 講師
  - 糖尿病患者における運動療法と血糖値変動に関する研究
  - 変形性膝関節症患者における筋内・筋間・皮下脂肪の視点もふまえた運動療法と食事療法の効果に関する研究

### 修了者論文テーマ(抜粋)

- 有酸素運動による亜急性期脳卒中患者のBDNF量増加と麻痺側上肢機能および活動に関する効果検証
- 大腿骨近位部骨折患者における荷重の左右非対称性を改善する起立方法に関する研究
- ブラインド体験を用いた統合失調症に対する対人関係および認知機能に焦点を当てたプログラムの効果について
- 下腿三頭筋の廃用性筋萎縮に対する局所振動刺激を併用した立位保持運動の効果
- 膝前十字靭帯再建の術前後における歩行中の足圧中心の特徴と術後成績に及ぼす影響
- 大腿四頭筋における筋内脂肪が筋の伸長による最大等尺性筋力の低下に与える影響について
- 術前変形性膝関節症患者における大腿四頭筋の筋厚・筋輝度と人工膝関節全置換術後の身体機能との関係
- 後方転倒回避ステップの運動学的分析および下肢筋機能との関係についての研究
- 回復期低栄養脳卒中患者における栄養状態の経過や栄養状態を考慮した運動療法の実施が日常生活動作の改善に与える影響
- ACL再建術抜釘時における膝関節軟骨変性と膝関節機能、歩行対称性の関連について
- スクワット動作時における脛骨回旋角度変化が膝関節内側半月板逸脱量に与える影響について
- 長期入院統合失調症者の口腔機能と歌唱活動による変化に関する探索的研究
- 変形性股関節症患者における同側および反対側膝関節に疼痛のある症例の特徴
- 中規模都市T市在住高齢者の生活実態調査と健康支援策に関する研究
- 変形性膝関節症に対する腹部引き込み歩行が膝関節機能および胸椎後弯角度に与える効果について
- 高齢者の車椅子座位における仙骨座圧及び骨盤前傾に対する形状記憶合金コルセットの装着効果について
- 地域在住高齢者の運動教室参加による動脈硬化指標の変化
- 脳卒中患者における呼吸筋力と体幹機能・上肢機能の関係性について
- ※●ダンスビデオゲームが軽度認知機能障害を有する地域在住高齢者の前頭葉機能に与える影響
- 通いの場参加者におけるフレイルの実態と専門職関与による変化に関する研究
- ※●膝関節前十字靭帯再建術における膝伸展制限の有無と術後伸展制限の残存について：前向きコホート研究

※国際学術専門誌に掲載

## 教員からのメッセージ

人が自立した日常生活を送るために「健康」は欠くことのできない必須事項です。これを維持、獲得するために「我々が支援できることは何なのか?」また、「その方法はどうすれば良いのか?」を摸索、追求するための学問が「健康支援学」です。本研究科では幅広い領域からヒトの「健康」を見つめ、その方法を見出すための基本的研究スキルと論理的思考過程を学ぶことを目的としています。

私の担当分野では、運動解析や電気生理学を主体としてヒトの運動を観察し、身体運動学、病態運動学の分野から人の健康を支援する方策を検討しています。日常的に繰り返される動きの中に隠されている局所への負担や疾患による運動形態の変化などに目を向けると、明らかにされていることはそれ程多くありません。皆さんとともに、ひとつでも多くの疑問を解決していこうと考えています。



古川 公宣 教授

「健康な状態で毎日を過ごしたい」これは、多くの人が望んでいることだと思います。多くの人々が、「健康な状態」で毎日を過ごすためには、どのような支援が必要でしょうか? その支援方法を考案し、開発していくのが「健康支援学」です。健康を支援する方法の考案・開発のためには、まずは現在の人々の健康状態や健康に対する認識、保健行動などを知ることが必要です。これらの現状を知ること、現在の問題点や今後の課題が見えてきます。健康状態や健康に対する認識、保健行動の現状分析や課題の抽出を行うためには、数量的なデータを使った解析だけではなく、人々の語りのデータを使った質的な解析も有用です。数量的なデータと質的なデータの両方を用いて、新たな健康支援の方法を一緒に考案・開発していきましょう。



筒井 秀代 教授

精神障害者数は、1999年の約204万人から、2020年の調査では約615万人と推計されていて、20年間で約3倍に増えています。また、人口減少、少子化、超高齢者社会の我が国では、メンタルヘルス、精神障害者の就労及び社会参加が大きな課題となっています。従って、精神障害者に対するリハビリテーションに関する研究は、重要な分野です。

また、健康生活にはスポーツが不可欠です。する、みる、支援の3つに誰しもが関わっていると思います。運動が苦手という方も、散歩、体操、ストレッチ、ヨガなどは行っています。スポーツ基本法において、障害者スポーツの振興を示したり、パラリンピックが注目されたり、障害者スポーツ分野の研究が注目され始めました。星城大学大学院で、共に学び、研究しませんか。



坂井 一也 教授

日本は世界でも最も高齢化が進んでおり、高齢者の割合が急速に増加しています。そのため、日本における高齢者の健康問題は重要な社会的課題の一つとなっています。Rowe JWとKahn RLが提唱したSuccessful Agingの条件の一つに、高い認知機能や身体機能を維持していることが挙げられています。

年長いても高い身体機能を維持し続けるためには、日々の運動が大切です。運動は、生活習慣病のリスクを減らすだけでなく、身体に障害のある方にとっても介護への依存を減らし、自立した生活を送るための重要な手段となります。しかし、運動を継続することは容易ではありません。そのため、私は運動が苦手な方や、障害をお持ちの高齢者でも簡単に続けられる、かつ科学的根拠のあるトレーニング方法の開発に取り組んでいます。健康支援の知識と技術を星城大学大学院で身につけ、高齢者の健康増進に貢献できる研究と一緒に取り組んでみませんか。



越智 亮 教授

## 2年履修者の1年次科目履修例

講義とは別に研究指導が毎月1~2回行われています

	曜日	月	火	水	木	金
●前期	1限目 18:30-20:00			前半：健康支援学研究法 後半：健康支援学特論	基礎統計学	
	2限目 20:10-21:40			前半：健康支援学研究法 後半：健康支援学特論	基礎統計学	
●後期	1限目 18:30-20:00				前半:健康行動支援学特論 後半:公衆衛生学	リハ健康支援学演習Ⅰ
	2限目 20:10-21:40				前半:健康行動支援学特論 後半:公衆衛生学	リハ健康支援学演習Ⅰ

## 3年長期履修者の1年次科目履修例

講義とは別に研究指導が毎月1~2回行われています

	曜日	月	火	水	木	金
●前期	1限目 18:30-20:00			前半：健康支援学研究法 後半：健康支援学特論		
	2限目 20:10-21:40			前半：健康支援学研究法 後半：健康支援学特論		
●後期	1限目 18:30-20:00				前半:健康行動支援学特論 後半:公衆衛生学	
	2限目 20:10-21:40				前半:健康行動支援学特論 後半:公衆衛生学	

# 大学院入学試験概要

募集定員12名

## 学位

保健学

## 出願資格

一般選抜試験 社会人選抜試験 学内特別選抜試験

## 出願にあたって

志望する領域の研究指導教員と研究テーマ・履修期間等についての詳細はご相談ください。

出願前に出願資格審査が必要な場合もあります。詳細については、大学院ホームページまたは募集要項をご覧ください。

## 出願期間、試験日程、試験会場など

### 前期募集

【入学試験日】 2025年11月15日(土)  
【出願期間】 11月1日(土)～11月7日(金)  
【合格発表日】 12月1日(月)  
【入学手続期限】 12月22日(月)  
【試験会場】 星城大学 本部東海キャンパス

### 後期募集

2026年2月21日(土)  
2月2日(月)～2月12日(木)  
3月2日(月)  
3月9日(月)  
星城大学 本部東海キャンパス

※出願資格、出願期間等は、星城大学大学院ホームページまたは募集要項にてご確認ください。

## 入試相談会

【日時】 2025年8月30日(土) 13:30～15:30  
オンライン開催

事前の申し込みが必要です。  
右のQRコードより参加登録をお願いします。▶



## ACCESS MAP

### ■星城大学本部東海キャンパス・星城大学大学院



### ■星城大学名古屋丸の内キャンパス・星城大学大学院



### 本部東海キャンパス

〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台二丁目172番地

☎0120-601-009

ホームページ  
<https://www.seijoh-u.ac.jp/graduate/>  
Eメールアドレス  
[nyushi@seijoh-u.ac.jp](mailto:nyushi@seijoh-u.ac.jp)



### 名古屋丸の内キャンパス

〒460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目4番10号

FAX 052-601-6010